

川上ダム通信

2022
3
月号



独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所
〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。
<https://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索
(右のQRコードを読み取っていただくと川上ダムホームページへ移行します。)



Vol. 199
Since 2005



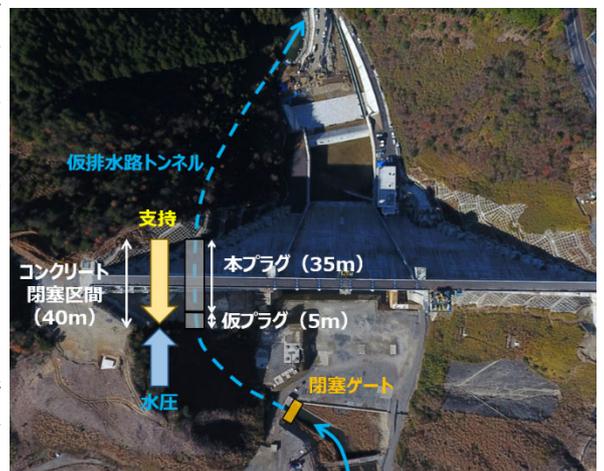
川上ダム公式 Twitter で工事の進捗状況やイベント情報を随時更新中！
https://twitter.com/jwa_kawakami

ご意見・ご感想はこちらへ
[e-mail:somu1@lily.ocn.ne.jp](mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp)

より確実な湛水に向けて - 仮排水路トンネル閉塞 -

令和3年12月16日(木)、仮排水路トンネルの呑口に閉塞ゲートを降下させ、試験湛水を開始しました。これによって、平成30年4月4日(水)より前深瀬川の流れを迂回させていた仮排水路トンネルは役目を終えました。現在、仮排水路トンネルには、湛水によって最大約70mの水圧がかかるため、内部をコンクリートで閉塞する工事が行われています。

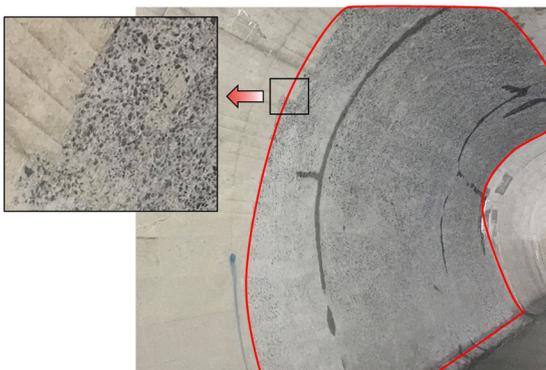
コンクリートで閉塞する区間は「本プラグ」と「仮プラグ」で構成され、その延長は40mです。ダムの貯水に抵抗する区間を「本プラグ」といい延長35mあります。本プラグが完全な閉塞機能を果たすまでの間、試験湛水時の貯水位上昇に対する安全を確保する区間を「仮プラグ」といい、延長5mあります。このうち、仮プラグは令和3年の年末にコンクリート打設が完了し、現在は本プラグの打設を実施しています。



コンクリートで閉塞する区間

確実な止水を行うため、施工は複数の段階に分かれています。まず、打設するコンクリートと仮排水路トンネルとの付着を良くするため、仮排水路トンネル表面を覆っているコンクリートを^{はつ}り(表面を削ること)、粗い表面に仕上げます。続いて、配管や型枠を組み立て、コンクリートを打設します。その後、コンクリートの充填が不足しやすいトンネル天端部へのモルタル注入や、コンクリートの温度収縮によって生じる微細な空隙に対してセメントミルクを注入するグラウチングというステップを経て、仮排水路トンネルの閉塞は完了となります。

施工中は、狭い仮排水路トンネル内部で様々な作業が行われますが、より確実な試験湛水に向けて安全を第一に工事を進めます。



^{はつ}り
トンネル表面を^{はつ}り、粗い表面に仕上げます



仮プラグのコンクリート打設のようす

【工事課 渡邊 峻】



試験湛水進捗状況

川上ダムは令和3年12月16日に試験湛水を開始しました。川上ダムの基礎地盤標高EL. 198.0mに対して令和4年1月31日9時には貯水位EL. 229.33mに達しており、貯水率（最高水位までの貯水量31,000千m³に対する割合）は約7%（2,220千m³）です。

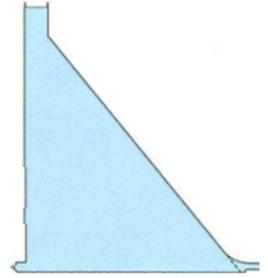
最高水位 (EL. 276.9m)

洪水貯留準備水位 (EL. 260.7m)

▼貯水位 (EL. 229.33m)

最低水位 (EL. 227.30m)

基礎地盤標高 (EL. 198.0m)



試験湛水状況（令和4年1月31日9時）



ダム直上流から前深瀬川を撮影
（令和4年1月31日撮影）



ダム直上流からダム堤体を撮影
（令和4年1月31日撮影）

【管理課 大高英澄】

堤体上の建屋工事がはじまりました！

今年に入り管理棟周辺にダム管理設備を格納するための鉄筋コンクリート造と鉄骨造の建屋を建てていますので進捗状況をお知らせします。

管理棟の対岸である左岸天端には鉄筋コンクリートラーメン構造の曝気設備建屋を建てており、基礎部分ができあがりました。堤頂上では壁式鉄筋コンクリート造の水位観測設備建屋やエレベータ設備建屋、多目的利用室建屋の壁面までコンクリート打設しております。

これらの建屋は今年の夏頃完成に向けて取り組んでまいりますので続報をご期待ください。

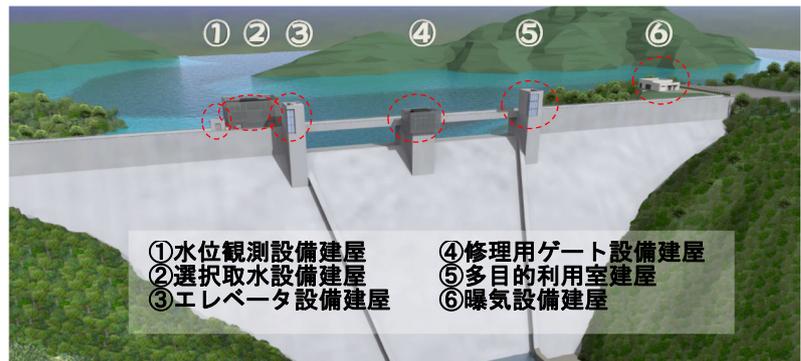


曝気設備建屋の基礎部分のようす



多目的利用室建屋

壁面コンクリート打設のようす



- ① 水位観測設備建屋
- ② 選択取水設備建屋
- ③ エレベータ設備建屋
- ④ 修理用ゲート設備建屋
- ⑤ 多目的利用室建屋
- ⑥ 曝気設備建屋

堤体上の建屋等の完成イメージ図

【工務課 山田 聖】

川上ダム水源地域ビジョン策定に向けて

— 第3・4回 作業部会の開催 —

川上ダムでは、水源地域ビジョン策定に向けて作業部会を開催しています。第2回作業部会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より事前配布した書面にてご意見を伺う形式となりましたが、令和3年11月5日（金）に第3回、令和4年1月13日（木）に第4回の作業部会を対面にて開催しました（第1回は川上ダム通信V o l . 1 9 2をご覧ください）。

第3回作業部会では、会議に先立ち水源地域の将来像を具体的にイメージしていただくため、新たに水源地域の特色となる川上ダムの現場視察を行いました。視察では、管理棟屋上より川上ダムを眺めながら、周辺整備の完成イメージをパネルで説明し、ダム天端からの眺望を確認しました。また会議では、事前にいただいた水源地域活性化の取組に関するご意見を基に、基本的な方向性や施策体系について議論しました。



管理棟屋上より現地視察



第4回作業部会のようす

第4回作業部会では、前回部会を踏まえて水源地域活性化の施策体系を整理しました。その上で具体的な行動計画を立案するために、地域で実施中の自然体験等の活動や既存ダムでの事例を基に、個別の取組内容について意見交換をしました。

今後も作業部会の開催を重ね、水源地域活性化に寄与するビジョンの策定へ向けて話し合っていきます。

【調査設計課 北爪 皓】

川上ダム周辺における希少猛禽類の保全について

猛禽類とは、鋭い爪とくちばしを持つ肉食の鳥類を指し、タカやワシのほか、トビやフクロウなども該当します。川上ダム周辺では様々な希少猛禽類が確認されており、ここ数年の調査ではサシバ、ハチクマ、ノスリ、オオタカのほか、ミサゴ、ツミ、クマタカ、ハヤブサ、ハイイロチュウヒなども確認されています。

これまで、ダム堤体の建設を始め猛禽類への影響が懸念される工事においては、騒音や振動の低減や、猛禽類の繁殖期には伐採作業を行わない等の配慮を行い、繁殖への影響の低減に努めました。川上ダム本体工事が起工された平成30年から堤体打設が完了した令和3年にかけても、サシバ、ハチクマ、ノスリ、オオタカ、ツミの繁殖又は繁殖行動が確認されており、保全対策の効果が少なからずあったものと考えています。

令和4年の調査では、試験湛水に伴いこれまで陸地だった環境が貯水池へと変化していく中で、猛禽類の繁殖状況及び出現種がどのように変化していくのかについて、注意深く観察していきたいと思えます。



雛に給餌するサシバ



ハチクマの雛



オオタカの雛

【環境課 戎谷大和】

川上ダム紙面見学会

試験湛水がはじまった川上ダムの今を少しでも味わっていただくため、「紙面見学会」を開催することとしました。今しか見られない川上ダムの様子を、是非ご堪能ください！

【総務課 奥野紗江】



2月上旬時点のダム湖の様子です！

今後も不定期で紙面見学会を開催予定です。川上ダム通信でこういったところが見たい！など、是非「**#川上ダム**」でツイートしてご要望をお聞かせください！



監査廊の中も少しだけお見せします！



ダムの上では堤体建屋工事が進んでおります。

イベント速報

先月号でご案内しました令和4年3月6日（日）開催予定の「初瀬街道まつり」の中止に伴い令和4年2月・3月の工事現場見学会の開催についても中止とさせていただきます。

編集後記

まだまだ寒い日が続いていますが皆さまはどのようにお過ごしでしょうか？試験湛水が始まり堤体上での作業が多くなりました。堤頂上は吹上げによる風が非常に強いためとても寒いです。筆者は何枚も重ね着をするなど寒さ対策を万全にし、現場に出たいと思います！

【広報誌発行事務局】

編集長 津久井（所長）

デスク 荒木（総務課長）

記者 奥野（総務課）

高橋（機械課）

渡辺（工務課長）

北爪（調査設計課）

山下（工事課）

近藤（用地課）

山田（工務課）

